



第26代理事長 就任挨拶 理事長就任にあたって

日鉄ドラム株式会社
代表取締役社長 藤井 清澄



去る5月25日の総会において、那須前理事長の後任として、第26代理事長に就任いたしました。私個人としては、2回目の理事長就任となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

国内外の情勢

2020年から8波に及んで繰り返されてきた新型コロナウイルスの蔓延も、5月には5類への変更等ようやく落ち着きを取り戻しつつあります。一方で、昨年2月に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵略は長期化し世界経済に、資源価格の高止まり、エネルギーコストの高騰、世界的インフレの加速、サプライチェーンの分断、中国・欧米景気の減速、と様々な悪影響を与えています。

こうした中、2023年4-6月期の国内実質GDPは速報値で前期比+1.5%と2期連続でプラスの成長となりましたが、輸入の減少が統計上プラスに寄与した面も大きいようです。GDPの過半を占める個人消費は物価高の影響により低調で再びマイナスに転じており、設備投資も横ばいで製造業の経済活動は依然予断を許さない状況です。

実際、当工業会の主要なお客様である石化メーカー様の活動水準は、輸出においては中国向けが大きく落ち込み、国内も自動車向けの在庫調整局面が依然継続しております。

結果的に、200L新缶ドラム・ペール缶ともに昨年同期以降、前年を大きく下回る極めて低レベルの出荷状況となっています。

工業会としての役割

決して楽観を許さない情勢が継続する中で、当工業会としては以下のような観点から会員各社をサポートし、ドラム缶・ペール缶の総合的な技術力・優位性の維持強化を行ってまいります。

第一に国際活動の活性化に努めます。産業用容器のグローバルな動向の情報収集とドラム缶・ペール缶の優位性の発信を目的に、ICDM（国際鋼製ドラム製造業者連合会）との連携を引き続き強化してまいります。

また、AOSD（アジア・オセアニア鋼製ドラム缶製造業者協会）については、2019年に中国蘇州にて16の国・地域から300名を超える参加者を得て国際会議を開催して以来、コロナ禍による対面会議の中断を余儀なくされましたが、次回の国際会議として来年4月に韓国仁川での5年ぶりの開催を予定しております。前回同様の実り多い会にすべく、「ドラム缶と地球環境」をコンセプトに着実な準備を行ってまいります。

第二に工業会として推進すべき共通の技術課題の検討です。カーボンニュートラル（CN）に向けた活動や、アシストスーツの適用検討、AOSD国際会議の技術発表に向けた検討、等に取り組んでまいります。

第三に鋼製ドラム缶・ペール缶の社会的認知度の向上です。ホームページリニューアルや分かりやすいパンフレット作製等を通じ、ほぼ100%のリサイクルと高いリユース率を誇る優れた【環境共生容器】であること、SDGsの観点からも優位性の高い容器であること、災害時の支援物資としての重要な役割を果たしていること、等を発信してまいります。

第四に安全・安心な職場づくりに貢献します。会員各社の災害事例の分析・情報共有を通じ類似災害の防止・対策の共有化を図ってまいります。

第五にコンプライアンスへの取り組みです。コンプライアンス勉強会の定期的実施や関連する各種情報の発信を通じ、会員各社の内部統制をサポートしてまいります。

以上、理事長就任にあたり、皆様方のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

しびき



CONTENTS

1 新理事長挨拶

2 2023年度役員・委員長の紹介

3 新社長紹介 JFEコンテナ（株） 関谷慶宣
独占禁止法順守研修会

4 AOSD役員会報告/AOSD韓国大会予告

5 ドラム缶工業会の安全活動

6 ペール委員会のSDGs活動

7 企画・統計委員会リサイクル企業訪問レポート
鋼製ドラムは、リサイクルの優等生です

8 ドラム缶・ペール缶の2022年度出荷実績

9 200Lドラム缶市場動向推移

2023年度 役員・委員長の紹介

2023年6月27日現在

■ 理事長		藤井 清澄	日鉄ドラム(株)	代表取締役社長
■ 副理事長	● 200L缶関係	関谷 慶宣	JFEコンテナ(株)	代表取締役社長
	● 中小型缶関係	吉岡 正俊	ダイカン(株)	代表取締役社長
	● ペール缶関係	長尾 浩志	(株)長尾製缶所	代表取締役社長
■ 常任理事	■ 兼監事	大淵 泰宏	(株)ジャパンペール	代表取締役社長
	■ 兼監事	今井 久代	(株)東京ドラム罐製作所	代表取締役社長
		内藤 誠	斎藤ドラム罐工業(株)	代表取締役社長
		金子 賢三	新邦工業(株)	代表取締役社長
		鈴木 康友	東邦シートフレーム(株)	代表取締役社長
		前田 洋子	(株)前田製作所	代表取締役社長
		山本 和男	(株)山本工作所	代表取締役社長
■ 委員長	● 企画・統計委員会	近松 幸士郎	日鉄ドラム(株)	取締役副社長
	● 技術委員会	木原 幹人	JFEコンテナ(株)	常務取締役
	● ペール委員会	藤田 智志	(株)長尾製缶所	千葉工場長
	● 安全委員会	村上 亮	JFEコンテナ(株)	安全防災室 課長
■ 事務局長		廣川 二郎	ドラム缶工業会	常務理事

新社長登場

JFEコンテナ株式会社
関谷 慶宣



本年4月より那須前社長の後任として就任いたしました。社長の重責を感じています。

簡単に自己紹介をします。1964年生、栃木県大田原市出身、1987年川崎製鉄(現JFEスチール)入社。35年間鉄鋼メーカーに勤務し、生産管理部門で13年(内製鉄所10年)、営業部門に22年携わりました。

ドラム缶業界は初めての経験です。個人的には、見るもの聞くもの全て新鮮ですが、歴史の重みも感じています。ご存じの通りドラム缶の充填物は化学・石油製品、塗料等になりますが、最終的には我々の日々の生活に欠かせない、自動車、建築、様々な日用品に使用されているものです。このサプライチェーンにドラム缶は重要な役割を担っています。

前の会社では知らない知識でしたが、一度使用されたあと複数回リユースされ、スクラップ回収後は鉄鋼原料としてリサイクルと、ドラム缶は実質100%の資源循環でまさにSDGsそのものだと感じています。

人々の暮らしを支える基幹インフラとして社会に貢献し環境にも優しいドラム缶、この良さを工業会メンバーの皆様と協力して世の中にさらに広める活動ができたらと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

独占禁止法順守研修会



開催日:2023年7月27日(木) 会場:鉄鋼会館(リモート中継)
講師:多田 敏明 弁護士

ドラム缶工業会が毎年行っているコンプライアンス勉強会は、今年度は2023年7月27日(木)に日比谷総合法律事務所の多田敏明弁護士を講師に迎え、昨年と同様にリモート中継も併用したハイブリッド方式で開催し、併せて100名以上が出席しました。

毎年繰返し確認している独占禁止法の目的と仕組み、カルテルの構造、制裁、リニエンシー制度や昨今の重要な事例等の説明に加え、今回は公正取引委員会が本年3月に明らかにしたガイドライン「グリーン社会の実現に向けた事業者等の活動に関する独占禁止法上の考え方」の内容に関して、公正取引委員会の基本姿勢と、共同取り組み、自主基準設定、共同研究開発、データ共有、業務提携の類型ごとに、独占禁止法上《問題となる例》と《ならない例》を解説いただきました。当工業会や会員としてもSDGsへの各取り組みを進めるうえで、密接に関わってくる問題であり大変有意義な講演会となりました。



AOSD役員会を開催しました

ドラム缶工業会は、2023年2月1日(水)にAOSD(アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会)の年次役員会をオンラインで開催しました。日本、韓国、インドの代表者が出席し(中国、タイは欠席)、競争法遵守の確認の下で、各国における生産の状況や、環境問題などの国際間での共通の課題を話し合いました。

各国の生産報告によれば、2021年はアジア全体では中国を除いてコロナ禍の影響から回復しましたが、2022年は一転して前年比マイナスになるか成長幅が減少している状況に変わっています。

環境問題については、当工業会から、GHGプロトコルのスコープ3についてICDM(国際鋼製ドラム製造業者連合会)で世界3極で共通のレスポンスを表明すべく、検討が進められていることを紹介しました。同時にAOSD各国に対して、将来の議論に備えて世界の動向を注視するように呼びかけ理解を得ました。

各国のドラム缶生産缶数(百万缶)

出所:ICDM、AOSD役員会、国により暦年と年度が混在

	日本			韓国	中国	タイ	インド	アメリカ			ヨーロッパ		
	新缶	更生缶	合計	新缶	新缶	新缶	新缶	新缶	更生缶	合計	新缶	更生缶	合計
2016年	13.6	10.7	24.3	9.8	130.1	3.6	11.1	26.4	24.4	50.7	30.7	4.5	35.3
2017年	14.1	10.8	24.9	10.3	135.0	3.7	11.4	26.6	23.4	50.0	32.2	4.5	36.7
2018年	14.0	11.0	25.0	10.2	130.8	4.1	12.0	26.6	26.5	53.1	31.6	4.0	35.6
2019年	13.6	10.6	24.1	10.4	130.0	4.0	11.7	24.2	25.1	49.3	31.2	5.2	36.5
2020年	12.6	10.0	22.6	10.0	129.5	3.6	10.6	24.1	27.6	51.7	29.1	6.0	35.0
2021年	14.3	10.4	24.7	10.4	125.0	4.1	11.3	na	17.4	na	28.8	6.0	34.8
前年比	+13.1%	+4.4%	+9.2%	+4.0%	▲3.5%	+14.9%	+6.6%		▲36.9%		▲0.9%	+0.7%	▲0.6%
2022年	13.3	9.8	23.1	9.5	121.0	4.0	11.9						
前年比	▲6.8%	▲5.8%	▲6.3%	▲8.7%	▲3.2%	▲2.9%	+5.3%						

第11回AOSD国際会議(技術発表会)を 24年4月に韓国で開催します

3年に一度行っていたAOSD国際会議は2019年中国蘇州で開催以来、コロナ禍で延期していましたが、2024年4月韓国での開催を決定しました。これに向けて、韓国のホストメンバーのInsung Co., LtdとAOSD事務局で開催の準備を開始しました。

日程 2024年4月22日(月)～4月24日(水)

場所 PARADISE CITY(仁川国際空港近く)

テーマ ドラム缶と地球環境(仮題)



国際会議HPはこちらの2次元コードから



会議は、当工業会からのドラム缶・ペール缶を製造する会員や口金・バンドを製造する賛助会員のほか、アジア中心に世界からおよそ200名の参加が想定されており、5年ぶりに対面での活発な国際交流が期待されます。また、日本からは5件のテーマに沿った技術発表を予定しています。

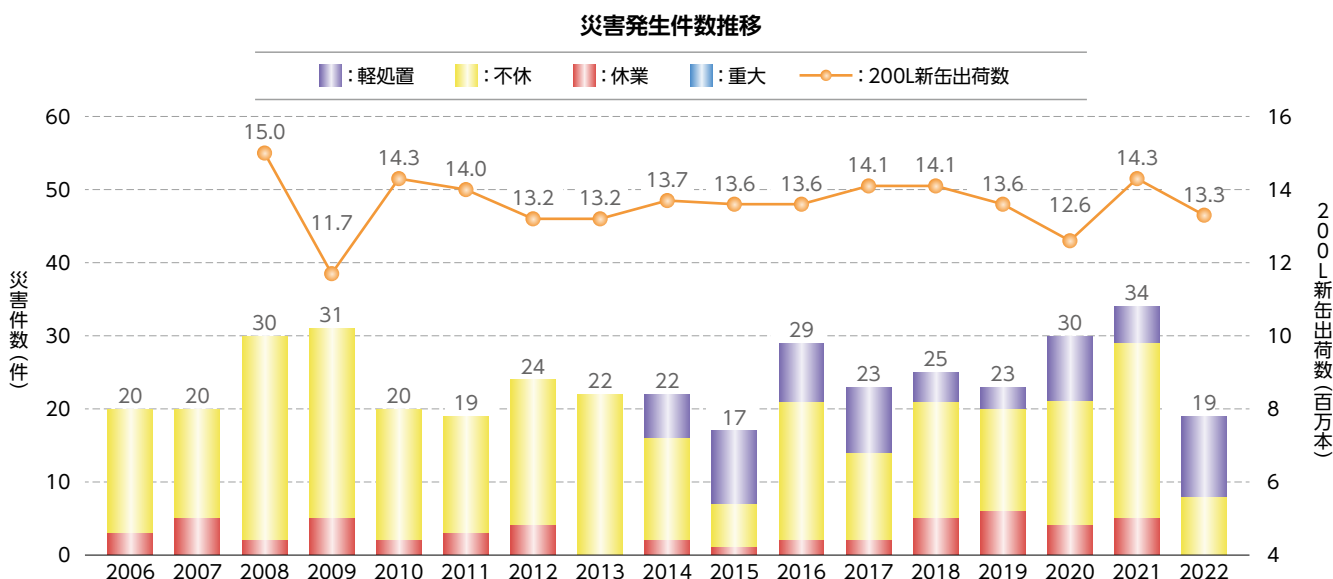
ドラム缶工業会の安全活動

ドラム缶工業会では、2006年より会員各社の労働災害事例を共有し、類似災害の撲滅活動を推進しています。

2022年の安全成績

① 労働災害発生件数の推移

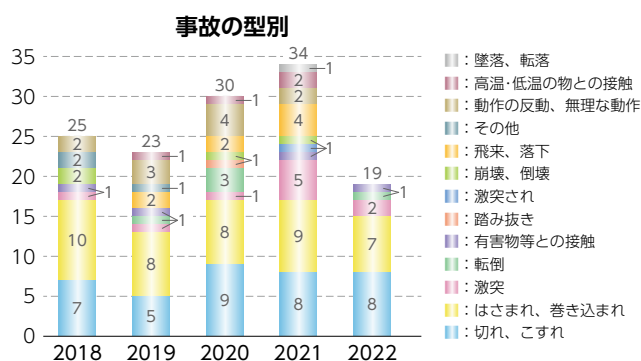
労働災害の発生件数は、2022年は9年ぶりに休業ゼロを達成し、総件数も19件と2015年に次ぐ低水準となり、安全成績は飛躍的に改善した年となりました。今後も更なる安全成績の向上を目指して、業界の共通課題を中心とした類似災害の撲滅活動を推進していきます。



② 労働災害発生傾向の分析

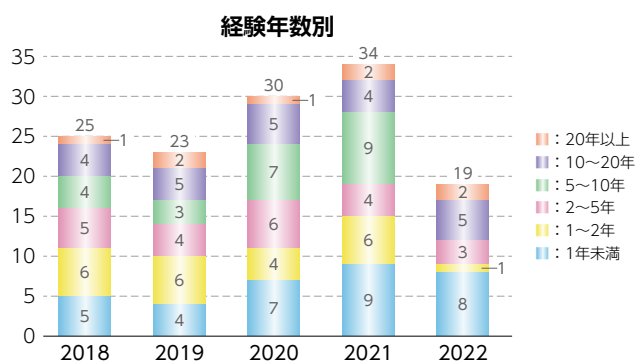
(1) 事故の型別

至近5年は、『はさまれ、巻き込まれ』及び『切れ、こすれ』がワースト2となっています。2022年もこれらで79%を占めており、「止めずに可動範囲で清掃しはさまれ」、「滞留ワーク除去時にはさまれ」、「チャイムとチャイム間にはさまれ」、「半製品エッジで切創」、「グラインダー／カッターナイフで切創」等の事案がありました。



(2) 経験年数別

至近5年は、『経験1年未満』がワースト1または2となり推移しています。2022年は、これが42%を占めており、労災は『経験1年未満』に集中していると言っても過言ではありません。なお、経験僅か1か月で労災となった作業には、「ケミドラム胴体受け取り」、「小型リークテスターの操作訓練」、「中小型缶搬送トラブル処理」がありました。

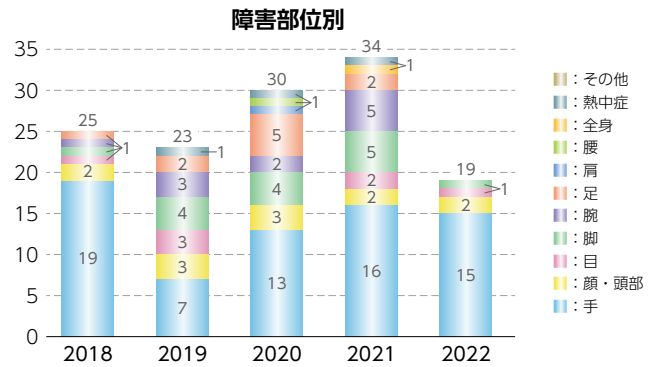


(3) 障害部位別

至近5年は、『手』がワースト1となり推移しています。2022年は、これが79%を占めています。

(4) まとめ

「掃除等の場合の運転停止等」の遵守、「雇入れ時の教育」の遵守と現場教育の充実、エッジでの切創リスクが付きまとう工程での切創防止手袋の装着検討が重要であることを改めて認識させるものとなりました。



会員会社による相互事例発表活動

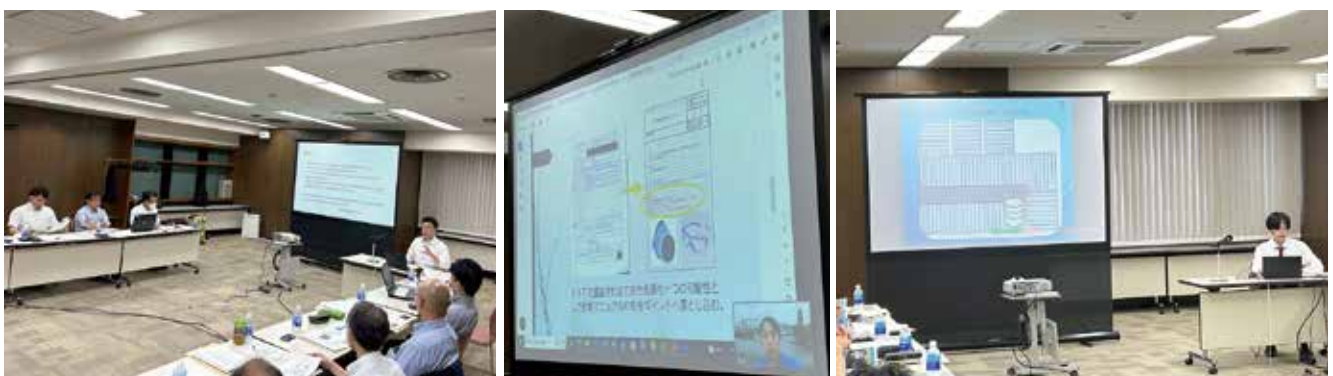
ドラム缶工業会は、毎年7月に各社の安全衛生活動の実態、並びに災害事例の相互発表会を行っています。2023年は新型コロナ規制の緩和により4年ぶりに対面での開催が実現しました。また、オンラインとのハイブリッド発表会としたことで、各社の工場からも多くの会員が参加しました。

以下は、今年7月7日に行った相互発表会での各社の発表テーマです。今回は、①標準・仕組み、②教育、③暑熱対策、④設備改善・作業改善、⑤安全活動、と多岐にわたるテーマでの発表がありました。

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1) リスクアセスメント活動、熱中症対策 | 齋藤ドラム罐工業 |
| 2) ストレージでのトラブルを未然に防ぎタッチレス化を目指そう | JFEコンテナ |
| 3) 22年度安全活動(全社活動、見える化等) | ジャパンパール |
| 4) 電動シャッター安全装置 | 新邦工業 |
| 5) 安全の取り組み及び作業環境改善 | ダイカン |
| 6) 安全への取り組み(安全教育、危険予知訓練、作業マニュアル) | 東京ドラム罐製作所 |
| 7) 暑熱対策に向けた取り組み | 東邦シートフレーム |
| 8) 安全等への取り組み(新人教育・指差呼称運動、新型コロナ対応) | 長尾製缶所 |
| 9) 大阪工場仕上リスクアセスメント | 日鉄ドラム |
| 10) 新人安全教育、新型コロナ対応、暑熱対策、フォークリフト等 | 前田製作所 |
| 11) 安全活動事例発表(安全衛生管理計画、作業環境の改善等) | 山本工作所 |

今回は主に対面での発表が実現したこともあり、いずれの発表にも活発な質疑が行われました。標準や仕組み面では、リスクアセスメントの評価基準や保護具着用モデル標準の作成、教育面では、KYT(危険予知訓練)の今後の活用やVRコンテンツの実例、他にも暑熱対策、設備改善の事例、指差呼称などの安全活動について、会員相互の貴重な情報共有の場となりました。

また、今回は若手社員による発表も多く、経験の浅い層に労働災害が集中する中で、安全意識の高い若手リーダーの育成の場としても有意義な発表会となりました。



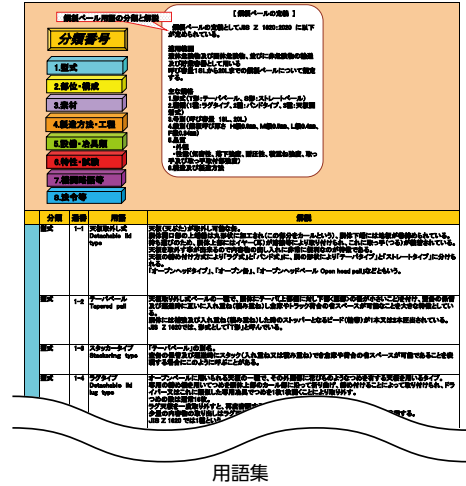
相互事例発表会での発表光景

ペール委員会のSDGs活動

ペール委員会ではペール缶の特長を活かしSDGs(持続可能な開発目標)の実現に貢献するための活動を継続しています。今回は以前に報告した具体的なアクション検討の成果について紹介します。

1 鋼製ペール用語集の改訂完了

ドラム缶工業会ホームページの「鋼製ペールの特長」に掲載している「鋼製ペール用語集」を改訂し、第三版として発行しました(全14ページ、253項目)。2020年に25年ぶりに改訂したJIS Z1620における規格改訂や、2015年(前回の用語集改訂)以降の製品デザインの一部変更、化学物質法令の改定などが織り込まれています。SDGs活動にも鑑み、業界関係者や一般の方々にペール缶をより身近な容器として意識していただくべく、さらに分かりやすい内容を目指しました。



用語集

2 資源の再使用(リユース)と有効活用(リデュース)への取り組み:取引先様との共創

ペール委員会のSDGs活動のご案内とお客様へのご理解のお願い



ペール委員会では、SDGs実現に向け、特に資源の再使用(リユース)と有効活用(リデュース)の促進についての検討を進めています。その中には、お客様にご提案し、一緒に取り組んでいただきたいテーマもあり、次の3点についてご提案資料を作成いたしました。関係される皆様方のご協力をいただきながらSDGsの達成に向けた活動を進めていきたいと考えております。

- ① ペール缶出荷時の天板用梱包箱の再使用(リユース率の向上)
 - ② ペール缶に同梱する仮天板(保護天板)の再使用(リユース率の向上)
 - ③ 外面印刷のリジェクト率の低減(資源のリデュース)
- (③につきましては全日本金属印刷工業協同組合連合会との共同活動です。)



ご提案資料は2次元コードからご覧いただけます

①

ペール缶の天板用梱包箱ご返却のお願い

天板の梱包箱をご返却いただき、再検査後に使い箱としてリユースすることで、資源の有効活用を図っております。

ご返却後の再検査で、汚れ・破れなどの不具合品は処分いたします。

きれいな状態でご返却頂くことで

- 更なる資源の有効活用
- 人手による再検査作業の負担の軽減

につながりますので、ご協力をお願い致します。

②

ペール缶に同梱する仮天板(保護天板)ご返却のお願い

仮天板をご返却いただき、再検査後にリユースすることで、資源の有効活用を図っております。

再検査で、汚れ・変形などの不具合が判明した場合はスクラップ処分いたします。

きれいな状態でご返却頂くことで

- 更なる資源の有効活用
- 再検査作業負担の軽減

につながりますので、ぜひ、ご協力をお願い致します。

③

ペール缶の外面印刷の不具合について許容限度緩和のお願い

ペール缶はわずかでも印刷漏れが見られれば、これを選別し廃棄処理してしまいます。金属印刷にあたっては継続して改善策を講じていますが、設備の都合でどうしても防ぎきれない現象も発生します。印刷品質は継続的課題ですが、許容限度の緩和ができれば、資源のロスも防ぎ、エネルギー削減、温室効果ガスの削減につながります。ぜひこの実情をご理解いただき、ご相談のうえにいただければとさせていただきます。(本件は全日本金属印刷工業協同組合連合会との共同活動です。)

企画・統計委員会リサイクル企業訪問レポート

金城産業株式会社様

(愛媛県松山市)

ドラム缶工業会の企画・統計委員会で
松山市の大手総合リサイクル企業、金城産業(株)を訪問しました。

日 時：2023年4月20日(木) 午後1時～午後3時
見学場所：金城産業株式会社 松山港リサイクルセンターおよび本社
見学参加者：ドラム缶7社 10名



金城社長(右から5人目)と工業会参加者

金城産業(株)は1975年に設立され、松山市を拠点に鉄鋼メーカーに納入する鉄スクラップをはじめ、非鉄金属原料の加工処理、自動車の解体やリサイクルパーツの販売、家電リサイクル等のリサイクル事業を幅広く展開されています。また、金城社長は小型家電リサイクル協会の会長も務めています。

当日は拠点の一つである松山港リサイクルセンターを訪問し、まず金城社長より、リサイクル全般の流れや金属類の加工処理工程、プラスチック等の非金属類の分別方法等の説明を受けました。その後、処理工場内でドラム缶を含めた鉄スクラップのシュレッダー加工の現場を見学しました。

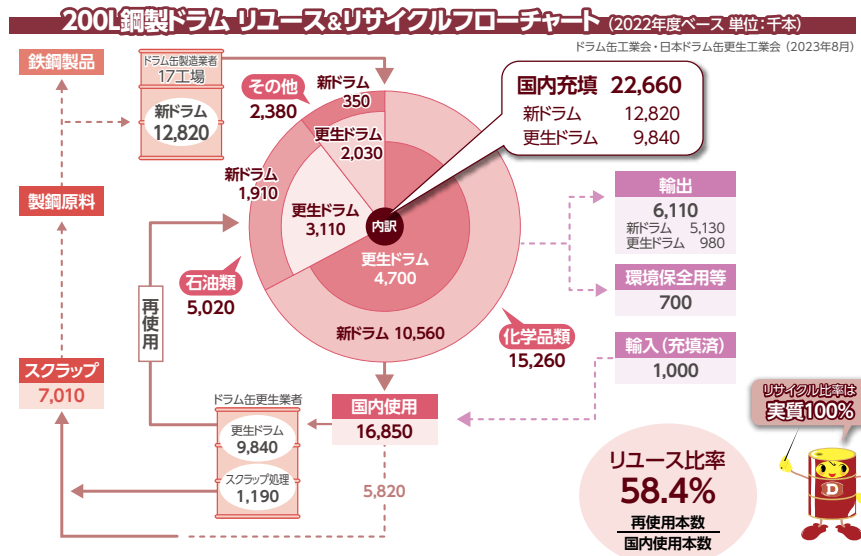
見学後、本社で意見交換を行いました。金城社長のゼロエミッションを目指したリサイクル率向上と環境保全による地域の発展にかける熱意と行動力に非常に感銘を受けました。今後ドラム缶のリサイクルやリユース活動を推進するうえで、工業会として大変に有意義な訪問となりました。



鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”です

資源としてのリサイクル比率は実質100%

鋼製ドラムは使用后、一部は更生ドラムメーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース(再使用)およびリサイクル(再利用)のシステムが確立しており、循環型リサイクルの優等生といえます。右の図は2022年度版200L鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は58.4%になりますが、環境保全会用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。



	当初(1997年)	2017年度ベース	2018年度ベース	2019年度ベース	2020年度ベース	2021年度ベース	2022年度ベース
工場数	新ドラム 18工場	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	17工場 (+1)
製造本数	新ドラム	12,000千本 (+3.6%)	14,000千本 (▲0.9%)	13,560千本 (▲3.1%)	12,820千本 (▲5.5%)	14,260千本 (+11.2%)	12,820千本 (▲10.1%)
	更生ドラム	16,000千本	11,020千本 (+0.9%)	11,240千本 (+2.0%)	10,720千本 (▲4.6%)	10,090千本 (▲5.9%)	10,480千本 (+3.9%)
国内充填	28,000千本	25,150千本 (+2.4%)	25,240千本 (+0.4%)	24,280千本 (▲3.8%)	22,910千本 (▲5.6%)	24,740千本 (+8.0%)	22,660千本 (▲8.4%)
国内使用	26,000千本	18,700千本 (+2.1%)	18,820千本 (+0.6%)	18,080千本 (▲3.9%)	17,070千本 (▲5.6%)	18,290千本 (+7.1%)	16,850千本 (▲7.9%)
リユース比率	61.5%	58.9% (▲0.7%)	59.7% (+0.8%)	59.3% (▲0.4%)	59.1% (▲0.2%)	57.3% (▲1.8%)	58.4% (+1.1%)

ドラム缶・ペール缶の2022年度出荷実績

2022年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ10.1%減、1,441千本減の12,817千本となりました。

用途別では、前年度に比べ石油向け(10.7%減、229千本減)、化学向け(10.6%減、1,170千本減)、塗料向け(5.8%減、40千本減)、食料品向け(7.3%減、16千本減)が減少し、その他向け(9.7%増、13千本増)が増加しました。

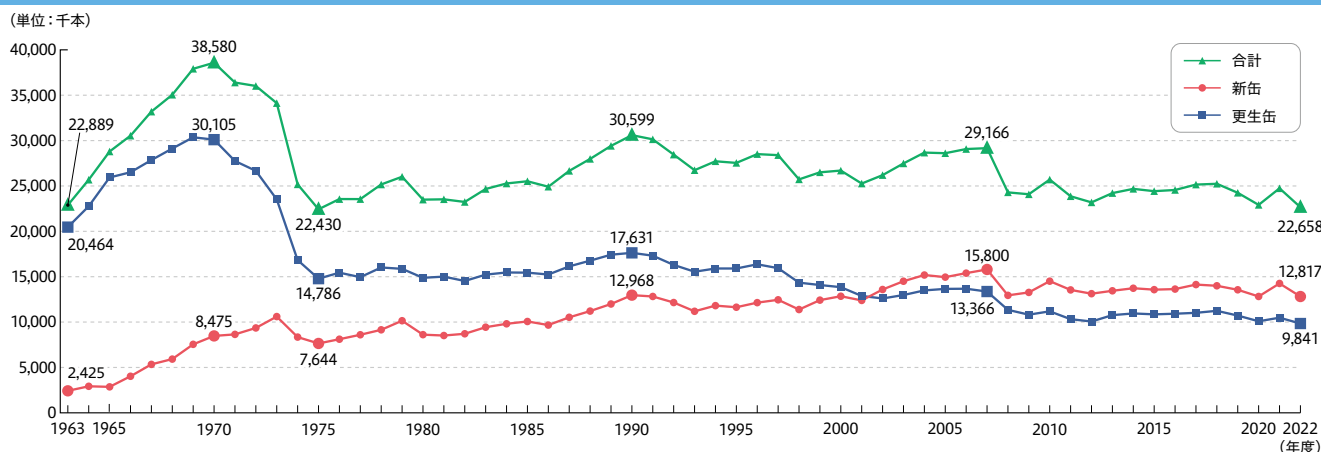
ペール缶は前年度比4.1%減の18,122千本、中小型缶は同4.9%減の395千本となりました。

2022年度缶種別・用途別出荷実績

缶種	2022年度実績						
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別((本数)(千本))				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,817	89.9	1,908 (89.3)	9,913 (89.4)	645 (94.2)	200 (92.7)	151 (109.7)
ペール缶	18,122	95.9	10,046 (97.8)	7,125 (94.1)	376 (82.0)	0	575 (95.6)
中小型缶	395	95.1	0	384	0	0	10
亜鉛鉄板缶	353	107.0	0	342	4	3	3
ステンレス缶	39	123.0	0	39	0	0	0
合計	31,726	—	11,954	17,803	1,025	203	740
前年度比(%)	—	—	91.4	89.8	93.5	93.2	104.4
構成比(%)	—	—	18.3	73.9	4.8	1.5	1.5

(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下端()は前年度比。 2. 前年度比ならびに、構成比は、トン数ベース。
3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。 4. 総本数は、31,726,098本。表上数値は四捨五入による差異がある。

200Lドラム缶市場動向推移(1963年度~2022年度)



(注) 1. 千本以下四捨五入。 2. 1963年度の新生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンと1965年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

・・・事務局だより・・・

本年5月末で
事務局長が
交代しました。
前任の坂元
信之さんは
2018年から
コロナ禍も
含めた5年間
工業会の運
営に尽力し
、5月末で
定年退職さ
れました。
大変お疲れ
様でした。
新任の事務
局長は廣川
二郎になり
ます。よろ
しくお願い
いたします。

廣川新事務局長(左)
坂元さん(右)



会員

《正会員》

- 齋藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製作所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

《準会員》

- 森島金属工業(株)

《賛助会員》

- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141
FAX 03-3669-2969
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.87(2023年9月1日発行)

発行人 ドラム缶工業会
常務理事 事務局長 廣川 二郎

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。